

東京大学大学院人文社会系研究科附属 北海文化研究常呂実習施設 平成 25 (2013) 年度の活動記録

(1) 活動の概要

平成 23 (2013) 年度における本施設の主要な動向としては、本施設研究棟が「ところ埋蔵文化財センター」内に移転し、北見市との間で同センターの共同利用が開始されたことがあげられよう。移転に至る経緯は以下のとおりである。本施設の研究棟は、昭和 40 (1967) 年に旧・常呂町が建設した建物を文学部が借用するかたちで東大による利用が開始されたが、近年は老朽化が著しく、平成 9 (1998) 年頃から常呂町及び市町村合併後の北見市に対して対応を要望してきた。しかし、建物の改築や新築は実現が難しかったため、「ところ遺跡の森」内に建設されている北見市「ところ埋蔵文化財センター」内の一部を研究棟として利用するという案が浮上した。ただし同センターは国の補助事業で建設された建物であったため、北見市と文化庁との間で建物の借用に関する協議がおこなわれた。折しも平成 21 (2009) 年 3 月に補助事業の財産処分に関する取り扱いが改正されたことを受けて、同センターを北見市と東大で共同利用することが文化庁から認められた。これを受けて移転計画の策定が平成 24 (2012) 年 3 月から開始されたが、その間、平成 23 (2011) 年 5 月には東大の浜田総長が北見市長を訪問し、移転案の推進について確認するなどの後押しもあった。平成 25 (2013) 年 6 月には実習施設と北見市の間で「ところ埋蔵文化財センター共同利用に関する覚書」が交換され、東大が同センター内の 105 m² を専用面積とするなど、共同利用の具体的な方法が決定された。旧研究棟からの移転作業は同年 11 月におこなわれ、12 月 1 日より共同利用が開始された。

以下、項目別に平成 25 (2013) 年度における本施設の活動の概要を記す。

研究活動に関しては以下の研究助成を受けた。熊木が研究代表者となったのは、科学研究費助成事業基盤研究 (B) 「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(平成 23 (2011) 年度～平成 27 (2015) 年度を予定) である。また、國木田が研究代表者となって科学研究費助成事業若手研究 (B) 「環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究」(平成 23 (2011) 年度～平成 26 (2014) 年度を予定) の助成を受けた。これらの課題の研究計画を軸として、北海道・東京などで調査研究を実施した。ほかに考古学研究室の大貫静夫教授を代表とする科学研究費助成事業基盤研究 (A) 「環日本海北回廊の考古学的研究」(平成 23 (2011) 年度～平成 27 (2015) 年度を予定) に熊木・國木田が連携研究者として加わった。この課題ではアムール下流域などで調査研究を実施するとともに、常呂実習施設研究報告第 11 輯として研究成果中間報告書『環日本海北回廊の考古学的研究 (I) - ヤミフタ遺跡発掘調査報告書 -』(2014 年) を刊行した。

また、大貫静夫教授を代表とする日本学術振興会の国間交流事業 オープンパートナーシップ共同研究「サハリン・北海道間における先史時代文化交流の解明のためのワークショップ」(平成 25 (2013) 年度～平成 24 (2014) 年度を予定) に熊木・國木田がメンバーとして加わり、サハリンで開催されたワークショップに参加した。

ほかに、科学研究費助成事業基盤研究 (A) 「黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における

更新世人類社会の形成と変容」(研究代表者：佐藤宏之 東京大学教授、平成 21 (2009) 年度～平成 25 (2013) 年度)、科学研究費助成事業若手研究 (A) 「日本列島北辺域における新石器／縄文化のプロセスに関する考古学的研究 (研究代表者：福田正宏 東京大学准教授、平成 25 (2013) 年度～平成 27 (2015) 年度を予定) に施設として協力し、熊木・國木田が湧別町湧別市川遺跡の発掘調査、國木田が北見市吉井沢遺跡の発掘調査に参加するとともに、前者の基盤研究 (A) については 2 冊の研究成果報告書、すなわち『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容 (II)』(常呂実習施設研究報告第 12 集、2014 年) と、『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容 (III) ー吉井沢遺跡の研究ー』(常呂実習施設研究報告第 13 集、2014 年) を刊行した。

夏の発掘調査実習である「野外考古学Ⅱ」では、平成 22 (2010) 年度より継続調査中の北見市大島 2 遺跡について発掘調査を実施した。本年度も本学の学生・大学院生に加えて、北京大学の徐天進教授と大学院生 4 名が参加している。大島 2 遺跡は来年度以降も調査を継続する予定である。

博物館学実習 A では実習課題として常呂資料陳列館の企画展を制作しているが、その成果である第 3 回の企画展「常呂実習施設の歩み」を、平成 25 (2013) 年 11 月から 12 月にかけて開催している。ほかにも同実習 A では、北見市が管轄する「ところ埋蔵文化財センター」に収蔵されている木製品の保存処理に関する実習をおこなうなど、これまでと同様に地域と連携したプログラムを実施している。

(2) 実習

博物館学実習 A

開講期間	平成 25 年 7 月 21 日～7 月 29 日 (7 月 30 日解散)
実習内容	常呂資料陳列館第 3 回企画展「常呂実習施設の歩み」制作・資料陳列館展示替え・ところ埋蔵文化財センター収蔵木製品の保存処理・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 8 名・大学院生 4 名・TA (大学院生) 1 名

野外考古学Ⅱ

開講期間	平成 25 年 8 月 20 日～9 月 4 日
調査遺跡	北見市大島 2 遺跡 2 号竪穴発掘調査
受講者等	学部生 7 名・大学院生 5 名 (TA を含む)・当施設教員 2 名・考古学研究室教員 2 名・北京大学教員 1 名・北京大学大学院生 4 名・北見市教育委員会 2 名・その他研究者等 3 名・発掘体験参加者 3 名

博物館学実習 B

開講期間	平成 25 年 9 月 5 日～9 月 13 日 (9 月 14 日解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 7 名・大学院生 (TA を含む) 4 名

(3) 調査研究活動

①研究助成金 (下線は当施設教員、以下同じ)

(当施設教員が代表者・分担者となった課題)

平成 25 年度 科学研究費助成事業 基盤研究(B) (平成 23～27 年度を予定)

「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(課題番号: 23320166)

研究代表者: 熊木俊朗 連携研究者: 大貫静夫、佐藤宏之、國木田大

平成 25 年度 科学研究費助成事業 若手研究 (B) (平成 23～26 年度を予定)

「環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究」(課題番号: 23720379)

研究代表者: 國木田大

平成 25 年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) (平成 22～25 年度を予定)

「完新世の気候変動と縄文文化の変化」(課題番号: 22320162)

研究代表者: 安斎正人 研究分担者: 福田正宏、國木田大

平成 25 年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) (平成 25～27 年度を予定)

「マリタ遺跡のヴィーナス像に関する年代研究」(課題番号: 25300037)

研究代表者: 吉田邦夫 研究分担者: 佐藤孝雄、加藤博文、増田隆一、國木田大

(当施設教員が連携研究者等で協力した課題)

平成 25 年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (A) (平成 21～25 年度を予定)

「黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容」

(課題番号: 21242026)

研究代表者: 佐藤宏之 研究分担者: 長崎潤一 (國木田大が研究協力者で参加)

平成 25 年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (A) (平成 23～27 年度を予定)

「環日本海北回廊の考古学的研究」(課題番号: 23251014)

研究代表者: 大貫静夫 連携研究者: 佐藤宏之、熊木俊朗、國木田大、吉田邦夫、福田正宏

平成 25 年度 国立歴史民俗博物館共同研究 (平成 23～25 年度を予定)

「柳田國男収集考古資料の研究」

研究代表者: 設楽博己 副代表者: 工藤雄一郎、共同研究員: 熊木俊朗、高瀬克範、福田正宏、山田康弘、和田 健、小池淳一、松田睦彦

平成 25 年度 科学研究費助成事業 若手研究 (A) (平成 25～27 年度を予定)

「日本列島北辺域における新石器/縄文化のプロセスに関する考古学的研究」

(課題番号: 25704014)

研究代表者: 福田正宏 (熊木俊朗、國木田大が研究協力者で参加)

平成 25 年度 日本学術振興会二国間交流事業 オープンパートナーシップ共同研究 (平成 25～26 年度を予定)

「サハリン・北海道間における先史時代文化交流の解明のためのワークショップ」

共同研究代表者: 大貫静夫・A. A. Vasilevskii (サハリン国立大学) (熊木俊朗、國木田大がワ

ークショップに参加)

②主な調査

ロシア連邦サハリン州 アジョールスク 5 遺跡・スラブナヤ 4・5 遺跡踏査 (サハリン国立大学との共同調査)

調査期間：平成 25 年 5 月 8 日～5 月 11 日

参加者 (日本側)：大貫静夫・佐藤宏之・福田正宏・熊木俊朗・國木田大

湧別市湧別市川遺跡の発掘調査

調査期間：平成 25 年 7 月 3 日～7 月 17 日

参加者：福田正宏・佐藤宏之・國木田大・役重みゆき・夏木大吾・垣内彰悟・久我谷溪太・西村広経・高鹿哲大・熊木俊朗・森先一貴

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 ダリジャ湖遺跡群 発掘調査 (ハバロフスク州国立極東博物館との共同調査)

調査期間：平成 25 年 8 月 1 日～8 月 16 日

参加者 (日本側)：熊木俊朗、國木田大、福田正宏

北見市大島 2 遺跡 発掘調査

調査期間等：前掲 (野外考古学Ⅱの項) のとおり

ロシア連邦サハリン州 スラブナヤ 5 遺跡 発掘調査 (サハリン国立大学との共同調査)

調査期間：平成 25 年 9 月 18 日～10 月 2 日

参加者 (日本側)：福田正宏・熊木俊朗・國木田大・役重みゆき・夏木大吾・高鹿哲大・森先一貴・大貫静夫

北見市吉井沢遺跡の発掘調査および出土遺物整理作業

調査期間：平成 25 年 10 月 9 日～10 月 29 日、平成 25 年 12 月 3 日～平成 26 年 3 月 31 日

参加者：佐藤宏之、山田 哲、國木田大、尾田識好、役重みゆき、夏木大吾、高鹿哲大

ロシア連邦サハリン州 スラブナヤ 5 遺跡 遺物整理作業 及び国際ワークショップ (於：サハリン国立大学)

調査期間：平成 25 年 12 月 18 日～12 月 25 日

参加者 (日本側)：福田正宏、熊木俊朗、國木田大、役重みゆき・夏木大吾・高鹿哲大・佐藤宏之・森先一貴

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 ダリジャ湖遺跡群 遺物整理作業 (於：ハバロフスク州極東国立博物館)

調査期間：平成 26 年 1 月 23 日～1 月 31 日

参加者 (日本側)：熊木俊朗、國木田大、福田正宏

③教員による発表論文等

(熊木関連分)

・著書・論文・調査報告等

2013年6月 熊木俊朗「隣接地域の様相と交流 - サハリン・千島列島」今村啓爾・泉拓良編『講座日本の考古学3 縄文時代(上)』青木書店、601-625頁。

2014年3月 大貫静夫監修、福田正宏・シェフコムード, I. Ya.・森先一貴・熊木俊朗編『環日本海北回廊の考古学的研究(I) - ヤミフタ遺跡発掘調査報告書-』常呂実習施設研究報告第11集、160頁。

・口頭発表(レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある)

2013年10月 熊木俊朗「最寄貝塚の学史的評価と最近の調査成果」『北の遺跡を発掘する - 北海道考古学の成果と展望-』北海道考古学会、22-27頁、北海道大学学術交流会館。

2013年10月 熊木俊朗「モヨロ貝塚の住居について」『モヨロ貝塚発見100年シンポジウム もっと知りたい!モヨロの暮らし』網走市立郷土博物館、5-7頁、網走市エコーセンター2000(『モヨロ貝塚発見100年シンポジウム もっと知りたい!モヨロの暮らし 開催概要報告書』網走市立郷土博物館、2014年、35-42頁に口頭発表内容を再録)。

2013年12月 KUMAKI, T. Satsumon Culture in the eastern part of Hokkaido and the its impact to Okhotsk Culture. In: International Workshop in Sakhalin 2013 "Study on adaptive strategy and interactive scenarios of the human communities in the island world of the prehistoric Northeast Asia", University Museum of Archaeology and Ethnography, Sakhalin State University.

2014年2月 熊木俊朗「環日本海北回廊地域における先史文化交流 - アムール下流域とサハリンの考古学調査-」知床博物館連続講座2014「となりのロシア」、知床博物館。

2014年3月 熊木俊朗・國木田大・山田哲「2013年度北海道北見市大島2遺跡発掘調査報告」『第15回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、25-28頁、札幌学院大学。

2014年3月 熊木俊朗・I.シェフコムード・福田正宏・國木田大・M.ゴルシュコフ・大貫静夫・A.シポバロフ・M.ガブリルチュク「アムール河口域ダリジャ湖遺跡群の考古学的調査」『第15回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、33-36頁、札幌学院大学。

2014年3月 夏木大吾・ワシレフスキー, A.・大貫静夫・佐藤宏之・グリシェンコ, V.・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・パシェンツェフ, P.・モジャエフ, A.・森先一貴・ペレグドフ, A.・役重みゆき・高鹿哲大・ルシカ, G.「2013年度スラブナヤ5遺跡発掘調査報告」『第15回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、9-12頁、札幌学院大学。

2014年3月 福田正宏・佐藤宏之・國木田大・役重みゆき・夏木大吾・垣内彰悟・久我谷溪太・西村広経・高鹿哲大・熊木俊朗・辻誠一郎・森先一貴「北海道湧別市川遺跡の発掘調査」『第15回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、21-24頁、札幌学院大学。

2014年3月 熊木俊朗・福田正宏・國木田大「鈴谷貝塚と鈴谷式土器」国立歴史民俗博物館共同研究

『柳田國男収集考古資料の研究』第6回研究会、国立歴史民俗博物館。

(國木田関連分)

・著書・論文・調査報告等

- 2013年4月 松本直子・松谷暁子・國木田大・吉田邦夫「出崎船越南遺跡出土土器付着炭化物について」『古代吉備』第25集、古代吉備研究会、57-69頁。
- 2013年5月 出穂雅実・國木田大・尾田識好・山原敏朗・北沢実「北海道十勝平野の後期旧石器時代遺跡の地質編年：新たなAMS放射性炭素年代の追加とその意義」『旧石器研究』第9号、日本旧石器学会、137-148頁。
- 2013年9月 國木田大「近年の考古学における¹⁴C年代研究」『月刊地球』408号、海洋出版株式会社、529-36頁。
- 2013年11月 山崎真治・横尾昌樹・伊藤圭・國木田大・新里尚美「沖縄先史土器の起源と南下仮説」『九州旧石器』第17号、九州旧石器文化研究会、283-295頁。
- 2013年12月 大貫静夫・國木田大・吉田邦夫「遠东北部新石器時代の演進」从额拉苏C遗址采集陶器的新测年代谈起」『昂昂溪考古文集』、科学出版社、245-248頁。
- 2013年12月 國木田大・吉田邦夫・大貫静夫「额拉苏C遗址出土陶器附着炭化物的¹⁴C年代測定」『昂昂溪考古文集』、科学出版社、249-250頁。
- 2014年1月 Ian Buvit, Masami Izuho, Karisa Terry, Yorinao Shitaoka, Tsutomu Soda, Dai Kunikita Late Pleistocene geology and Paleolithic archaeology of the Simaki site, Hokkaido, Japan. *Geoarchaeology*, 29, 221-237.
- 2014年1月 Takao Sato, Fedora Khenzykhenova, Alexandra Simakova, Guzel Danukalova, Eugeniya Morosova, Kunio Yoshida, Dai Kunikita, Hirofumi Kato, Kenji Suzuki, Ekaterina Lipnina, German Medvedev, Nikolai Martynovich Paleoenvironment of the Fore-Baikal region in the Karginian interstadial: Results of the interdisciplinary studies of the Bol'shoj Naryn site. *Quaternary International*, 333, 146-155.
- 2014年3月 國木田大「ジョルティ・ヤル遺跡出土資料の¹⁴C年代測定」『ロシア沿海地方の初期金属器時代』、札幌学院大学、73-74頁。
- 2014年3月 國木田大・シェフコムード・吉田邦夫・松崎浩之「¹⁴C年代測定と炭素・窒素同位体分析」『環日本海北回廊の考古学的研究（I）—ヤミフタ遺跡発掘調査報告書—』東京大学常呂実習施設研究報告第11集、東京大学大学院人文社会系研究科、73-81頁。
- 2014年3月 Dai Kunikita, Igor Ya. Shevkomud, Kunio Yoshida, Hiroyuki Matsuzaki Radiocarbon dating of charred remains on pottery and analyzing food habits of the Osipovka culture, Russian Far East. An archaeological study on prehistoric cultural interaction in the Northern Circum Sea Japan Area(1): Yamikhta site excavation report, The University of Tokyo, 108-113.
- 2014年3月 Dai Kunikita, Sergei P. Nesterov, Kunio Yoshida, Hiroyuki Matsuzaki, Shizuo Onuki Radiocarbon dates of charred remains on pottery of the Gromatukha site. An archaeological study on prehistoric

cultural interaction in the Northern Circum Sea Japan Area(1): Yamikhta site excavation report, The University of Tokyo, 114-116.

2014年3月 出穂雅実・森先一貴・山田哲・國木田大・A.N.ポポフ・Yu.A.ミキーン・B.V.ラジン・佐藤宏之「ロシア沿海地方ハサン地区グヴォズデヴォ5遺跡の発掘調査」『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容(II)』東京大学常呂実習施設研究報告第12集、東京大学大学院人文社会系研究科、172-185頁。

2014年3月 イアン、ブーヴィット・出穂雅実・國木田大・夏木大吾・山田哲・佐藤宏之「吉井沢遺跡における地考古学的調査研究」『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容(III)－吉井沢遺跡の研究－』東京大学常呂実習施設研究報告第13集、東京大学大学院人文社会系研究科、195-201頁。

2014年3月 國木田大・吉田邦夫・松崎浩之「吉井沢遺跡出土資料の¹⁴C年代測定」『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容(III)－吉井沢遺跡の研究－』東京大学常呂実習施設研究報告第13集、東京大学大学院人文社会系研究科、244-247頁。

2014年3月 國木田大・松崎浩之、「長畑遺跡出土資料の¹⁴C年代測定と炭素・窒素同位体分析」『長畑遺跡発掘調査報告書一月布川流域における縄文時代遺跡の研究3－』、東京大学大学院新領域創成科学研究科、49-50頁。

2014年3月 國木田大・松崎浩之、「長畑遺跡出土資料の年代検討と土器付着物を用いた食性分析」『長畑遺跡発掘調査報告書一月布川流域における縄文時代遺跡の研究3－』、東京大学大学院新領域創成科学研究科、79-87頁。

2014年3月 小熊博史・國木田大「岩野原遺跡後期集落出土のクッキー状炭化物の検討」『長岡市立科学博物館研究報告 第49号』、長岡市立科学博物館、37-46頁。

2013年 Dai Kunikita, Igor Shevkomud, Kunio Yoshida, Shizuo Onuki, Toshiro Yamahara, Hiroyuki Matsuzaki Dating charred remains on pottery and analyzing food habits in the Early Neolithic period in Northern Asia. *Radiocarbon*, 55, 1334-1340.

2013年 Kunio Yoshida, Dai Kunikita, Yumiko Miyazaki, Yasutami Nishida, Toru Miyao, Hiroyuki Matsuzaki Dating and stable isotope analysis of charred residues on the Incipient Jomon pottery (Japan). *Radiocarbon*, 55, 1322-1333.

・口頭発表（レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある）

2013年5月 阿部昭典・國木田大「縄文時代後期の蓋付深鉢出現の意義」『日本考古学協会第79回総会 発表要旨』日本考古学協会、160-161頁、駒澤大学（ポスター発表）。

2013年6月 山崎真治・藤田祐樹・片桐千亜紀・國木田大・海部陽介「琉球列島における後期更新世／完新世移行期の人類とその文化」『日本旧石器学会第11回講演・研究発表シンポジウム予稿集』日本旧石器学会、15-18頁、東海大学。

2013年7月 國木田大「縄文土器料理の中身を探る」『帯広百年記念館博物館講座』、帯広百年記念館。

- 2013年12月 KUNIKITA, D. Radiocarbon dating on archaeological studies in Northeast Asia. In: International Workshop in Sakhalin 2013 “*Study on adaptive strategy and interactive scenarios of the human communities in the island world of the prehistoric Northeast Asia*”, University Museum of Archaeology and Ethnography, Sakhalin State University.
- 2014年2月 山田哲・佐藤宏之・國木田大・役重みゆき・夏木大吾・高鹿哲大・尾田識好「北海道北見市吉井沢遺跡 2013 年度発掘調査」『第 27 回東北日本の旧石器文化を語る会 発表要旨』東北日本の旧石器文化を語る会、2-11 頁、北海道大学。
- 2014年2月 國木田大「石刃鍬石器群の年代」『環日本海北回廊における完新世初頭の様相解明□「石刃鍬文化」に関する新たな調査研究□ 研究集会 発表要旨』東京大学大学院人文社会系研究科、25-34 頁、東京大学。
- 2014年3月 熊木俊朗・國木田大・山田哲「2013 年度北海道北見市大島 2 遺跡発掘調査報告」『第 15 回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、25-28 頁、札幌学院大学。
- 2014年3月 熊木俊朗・I.シェフコムード・福田正宏・國木田大・M.ゴルシュコフ・大貫静夫・A.シポバロフ・M.ガブリルチュク「アムール河口域ダリジャ湖遺跡群の考古学的調査」『第 15 回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、33-36 頁、札幌学院大学。
- 2014年3月 夏木大吾・ワシレフスキー, A.・大貫静夫・佐藤宏之・グリシェンコ, V.・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・パシェンツェフ, P.・モジャエフ, A.・森先一貴・ペレグドフ, A.・役重みゆき・高鹿哲大・ルシカ, G.「2013 年度スラブナヤ 5 遺跡発掘調査報告」『第 15 回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、9-12 頁、札幌学院大学。
- 2014年3月 福田正宏・佐藤宏之・國木田大・役重みゆき・夏木大吾・垣内彰悟・久我谷溪太・西村広経・高鹿哲大・熊木俊朗・辻誠一郎・森先一貴「北海道湧別市川遺跡の発掘調査」『第 15 回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、21-24 頁、札幌学院大学。
- 2014年3月 佐藤宏之・夏木大吾・國木田大・役重みゆき・高鹿哲大・山田哲・尾田識好「北海道北見市吉井沢遺跡の発掘調査」『第 15 回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、17-20 頁、札幌学院大学。
- 2014年3月 熊木俊朗・福田正宏・國木田大「鈴谷貝塚と鈴谷式土器」国立歴史民俗博物館共同研究『柳田國男収集考古資料の研究』第 6 回研究会、国立歴史民俗博物館。

④当施設発行の刊行物

- 2014年3月 大貫静夫監修、福田正宏・シェフコムード, I. Ya.・森先一貴・熊木俊朗編『環日本海北回廊の考古学的研究 (I) ーヤミフタ遺跡発掘調査報告書ー』常呂実習施設研究報告第 11 集、160 頁。
- 2014年3月 佐藤宏之・出穂雅実編『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世

人類社会の形成と変容（Ⅱ）』（常呂実習施設研究報告第12集、251頁。

2014年3月 佐藤宏之・山田哲編『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容（Ⅲ） —吉井沢遺跡の研究—』（常呂実習施設研究報告第13集、313頁。

（4）教育普及活動

①遺跡発掘体験講座

主催	東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市教育委員会
開講日時	平成25年8月24日 10:00～12:00
プログラム等	①遺跡の概要説明と見学 大島遺跡群 ②遺跡発掘体験 大島2遺跡
講師	熊木俊朗・山田 哲（北見市教育委員会）
参加者	3名

②第17回文学部公開講座

主催	東京大学文学部・北見市・北見市教育委員会
開講日時	平成25年10月11日（①13:30～14:40、②18:30～21:00）
プログラム等	①常呂高校特別講座（共催：常呂高等学校、会場：常呂高等学校体育館） 「右か左か、東か西か —日中比較表現論」（講師：木村 英明 東京大学大学院人文社会系研究科教授） ②端野公開講座（会場：端野町公民館） 第1講「「他者」の持つ力 ～社会的影響の心理学」（講師：唐沢かおり 東京大学大学院人文社会系研究科教授） 第2講「文化とまちづくり ～保存と活用の葛藤」（講師：小林 真理 東京大学大学院人文社会系研究科准教授）
東大関係出席者：	木村英明・唐沢かおり・小林真理・佐藤宏之（人文社会系研究科教授）・熊木俊朗・國木田大・杉村聖治（文学部事務長）・ほか東京大学職員2名

③企画展

テーマ	第3回企画展「常呂実習施設の歩み」
会期	平成25年11月9日～平成25年12月25日
会場	常呂資料陳列館 3F 企画展示室
協力	北見市教育委員会、常呂町郷土研究同好会
展示概要	常呂実習施設研究棟がところ埋蔵文化財センター内に移転し、同センター

の共同利用が開始されたことを記念して、半世紀に及ぶ常呂実習施設の歩みを紹介。展示パネルで施設設立の経緯、調査研究や教育普及活動の記録、地域連携活動等について説明するとともに、施設設立時の構想や建設計画に関する書類、初期の発掘調査の記録、初期の調査で出土した考古資料などの実物資料を展示した。

④広報活動

本郷本部棟における展示（常呂実習施設の概要紹介）

会期 平成26年1月8日～2月27日

会場 東京大学本郷キャンパス本部棟 1F ロビー

内容 常呂実習施設の概要、研究教育実績、地域連携、国際交流等について A0サイズの展示パネル5枚で紹介するとともに、研究成果を具体的にイメージする資料として、文学部考古列品室所蔵の網走市最寄貝塚出土考古資料を展示した。

常呂実習施設・常呂資料陳列館 Website の更新（随時）

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>

⑤非常勤講師・委員委嘱等

（熊木関連分）

日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員（平成24年度～平成25年度）

北見市史編集委員会委員（平成24年度～平成29年度）

常呂川流域文化遺産活用推進事業実行委員会 委員長（平成24年度～平成25年度）

国立歴史民俗博物館共同研究員（平成25年度）

日本赤十字北海道看護大学 非常勤講師（平成25年4月～9月）

北見市常呂自治区社会教育推進会議委員（平成25年度）

北海道立北方民族博物館研究協力員（平成25年度）

北見市史跡整備専門委員（平成26年2月13日～3月31日）

北見市文化財審議委員会委員（平成26年3月5日～平成28年3月4日）

（國木田関連分）

むつ市二枚橋（1）遺跡出土遺物整理指導（青森県教育委員会）（平成25年度）

（5）実習施設利用状況

①研究者の主な受入状況

平成25年4月 福田正宏（東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授）「常呂町周辺遺跡出土考古資料の調査研究」

平成25年6月 役重みゆき（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）「北海道の細石刃石器群の調査」

平成 25 年 6 月 辻誠一郎（東京大学大学院新領域創成科学研究科・教授）、垣内彰悟（東京大学大学院新領域創成科学研究科・修士課程）「常呂遺跡周辺の自然科学調査」

平成 25 年 7 月 福田正宏（東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授）、役重みゆき、夏木大吾（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）、久我谷溪太、西村広経、高鹿哲大（東京大学大学院人文社会系研究科・修士課程）、垣内彰悟（東京大学大学院新領域創成科学研究科・修士課程）、榊田朋広（札幌市埋蔵文化財センター・学芸員）、内田和典（和歌山市文化スポーツ振興財団埋蔵文化財センター・学芸員）、森先一貴（奈良文化財研究所・研究員）「湧別市川遺跡の調査」

平成 25 年 10 月 佐藤宏之（東京大学大学院人文社会系研究科・教授）、役重みゆき、夏木大吾（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）、高鹿哲大（東京大学大学院人文社会系研究科・修士課程）、尾田識好（明治大学校地内遺跡調査団・調査研究補助員）、山田哲（北見市教育委員会・学芸員）「吉井沢遺跡の調査」

平成 25 年 10 月 乾哲也（厚真町教育委員会・学芸員）「ライトコロ川口遺跡出土資料の調査」

平成 25 年 12 月 役重みゆき、夏木大吾（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）、高鹿哲大（東京大学大学院人文社会系研究科・修士課程）、山田哲（北見市教育委員会・学芸員）「吉井沢遺跡の資料調査」

平成 25 年 12 月 中村雄紀（公益財団法人かながわ考古学財団・調査員）「常呂町周辺遺跡出土考古資料の調査研究」

平成 26 年 1 月 鈴木建治（北海道大学アイヌ・先住民研究センター・研究員）「内耳土器の調査研究」

平成 26 年 1 月 役重みゆき、夏木大吾（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）「吉井沢遺跡の資料調査」

平成 26 年 2 月 高橋健（横浜市歴史博物館・学芸員）「トコロチャシ跡遺跡資料の分析・研究」

平成 26 年 2～3 月 佐藤宏之（東京大学大学院人文社会系研究科・教授）、役重みゆき、夏木大吾（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）、高鹿哲大（東京大学大学院人文社会系研究科・修士課程）、尾田識好（明治大学校地内遺跡調査団・調査研究補助員）、山田哲（北見市教育委員会・学芸員）「吉井沢遺跡の資料調査」

平成 26 年 3 月 佐野雄三（北海道大学大学院農学研究院・教授）「トコロチャシ跡遺跡資料の分析・研究」

②学生宿舎稼働状況（実習含む 単位：宿泊者 1 人あたり宿泊数の和）

4 月：2	5 月：0	6 月：13	7 月：240	8 月：132
9 月：143	10 月：51	11 月：0	12 月：27	1 月：4
2 月：15	3 月：39			
合計：666 名				

③北海文化研究常呂資料陳列館入館者数（入館者名簿に基づく人数）

4月：18	5月：85	6月：50	7月：68	8月：70
9月：32	10月：26	11月：11	12月：5	1月：0
2月：2	3月：5			

合計：372名

④資料貸出等

若狭徹『シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊04 古墳時代ガイドブック』（新泉社、平成25年5月）

最寄貝塚の埋葬人骨（データ提供）

縄文文化を発信する会『縄文人はどこへいったか？』（縄文文化を発信する会、平成25年12月）

トコロチャシ跡遺跡2号竪穴出土土器 写真1点（データ提供）

（6）組織

（北海文化研究常呂実習施設）

北海文化研究常呂実習施設長 小佐野重利（併任 研究科長・学部長）

北海文化研究常呂実習施設運営委員会 委員6名（委員長・副委員長各1名、委員4名）

准教授 熊木俊朗

助教 國木田大

有期雇用職員 2名

（北海文化研究常呂資料陳列館）

館長 小佐野重利（併任 研究科長・学部長）

（文責：熊木俊朗）